

令和元年度さとうきび・甘蔗糖関係 検討会の概要

那覇事務所、鹿児島事務所

当機構は、沖縄県および鹿児島県の南西諸島における重要な基幹作物である、さとうきびの生産に関するさまざまな課題を両県の関係者が一丸となって解決していくことを目的として、毎年「さとうきび・甘蔗糖関係検討会」（以下「検討会」という）を開催している。

18回目となった今回は、令和元年11月14、15日に、沖縄県石垣市の石垣市民会館において、「さとうきび生産の安定化および省力化に向けて」をテーマに開催した。検討会には、沖縄県および鹿児島県を中心に、生産者、生産者団体、製糖企業、行政、研究機関、農機具メーカーなど、総勢280人が参加した。

1. 1日目の議事概要

(1) 「砂糖をめぐる現状と課題について」

農林水産省政策統括官付地域作物課課長補佐の古田哲央氏より「砂糖をめぐる現状と課題について」をテーマに、砂糖およびさとうきびの生産動向などについて説明があった。

(2) パネルディスカッション

「さとうきび生産の安定化および省力化に向けて」をテーマに、琉球大学名誉教授の上野正実氏を座長とし、沖縄県、鹿児島県の生産者代表などによるパネルディスカッションを行った（表1）。

まず、両県代表の6人から発表を行い、その後、座長を中心にディスカッションを行った（表2）。上野座長は、「さとうきびにおける機械化は、人手不足を補うために消極的に進められてきたが、今後はもうけられる経営にするための積極的な機械化が



写真1 会場の様子



写真2 パネルディスカッションの様子

表1 パネルディスカッションの参加者

(敬称略)

		所属等	氏名
座長		琉球大学 名誉教授	うえの まさみ 上野 正実
パネラー			
沖縄県代表		沖縄県農林水産部糖業農産課さとうきび班 班長	いれい しん 伊禮 信
		沖縄本島北部代表	なかもと たかし 仲本 峻
		沖縄本島南部代表	あらかき ともや 新垣 智也
鹿児島県代表		鹿児島県農政部農産園芸課 糖業特産作物係長	いぶすき ひろし 指宿 浩
		種子島代表	こうづま ひでや 上妻 英矢
		沖永良部島代表	かんざき けんぞう 神崎 兼三
		鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場 作物研究室長	さとう みつのり 佐藤 光徳

表2 パネルディスカッションにおける発表者および概要

(敬称略)

発表者			テーマ	概要
沖縄県代表	沖縄県農林水産部 糖業農産課 さとうきび班 班長	伊禮 信	沖縄県の取組みについて	沖縄県におけるさとうきび生産の動向、軽労化・省力化・効率化に向けた機械化の推進、株出しの単収向上に向けた取り組みなどを説明。
	沖縄本島北部代表	仲本 峻	多収株出し栽培の実現～適期栽培管理の重要性～	毎日、圃場を観察することで、生育のタイミングを逃すことなく肥培管理を行い、補植作業を丁寧に行うことで株出しの単収向上を図っている。
	沖縄本島南部代表	新垣 智也	生産法人の使命	農業生産法人として、さとうきび生産に係る作業受託以外に、野菜生産者からの作業受託やかんしょ栽培などを手掛けることで事業を拡大させ、年間を通じて安定した作業量と収入を確保している。
鹿児島県代表	鹿児島県農政部 農産園芸課 糖業特産作物係長	指宿 浩	鹿児島県におけるさとうきびを巡る現状と課題	鹿児島県におけるさとうきび生産の動向、担い手不足による適期管理作業の遅れへの対応、消極的な株出しへの対応などについて説明。
	種子島代表	上妻 英矢	TOPS3000の活動報告と今後の取組みについて	種子島のさとうきび生産振興を目的に若手生産者で組織された「TOPS3000」は、全茎式プランターを活用した植え付け作業受託、低コスト・省力化を図るための作付方法の試験、機械化の推進などに取り組んでいる。
	沖永良部島代表	神崎 兼三	機械化省力栽培の取組みによるさとうきび面積の拡大	さとうきび生産における機械化一貫体系を構築し、効率的に作業を実施することで、少ない労働力により自身でさとうきび生産を行いながら、収穫作業受託を可能にしている。

重要である」と、佐藤室長は、「株出しにおいては、補植をうまく行い、株出しの回数を増やしていくことで、労働力などのコストを削減することが可能である」と総括した。

(3) 基調講演

琉球大学農学部教授の川満芳信氏より、同氏が中心となって南大東島で実施する「さとうきびの生育情報に基づく精密栽培管理によるスマート農業体系」について説明があった。

(4) 研究成果発表

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター（以下「九沖研」という）種子島研究調整監の田村泰章氏をコーディネーターとし、4人の研究者から研究成果発表が行われた（表3）。

(5) タイにおける砂糖産業の動向

1日目の最後に、当機構調査情報部の塩原百合子より「タイにおける砂糖産業の動向」について報告を行った。

表3 研究成果発表の発表者および概要

(敬称略)

所属等	氏名	テーマ	概要
コーディネーター			
九冲研 種子島研究調整監	たむら やすあき 田村 泰章		
発表者			
国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 熱帯・島嶼研究拠点 主任研究員	てらしま よしふみ 寺島 義文	さとうきび品種改良の歴史と遺伝資源利用の重要性	さとうきび品種改良の歴史、現状、今後の改良の方向性などについて説明。
九冲研 作物開発利用研究領域さとうきび育種グループ 上級研究員	はっとり たいちろう 服部 太一朗	さとうきび野生種を活用した次世代の品種開発	さとうきび野生種の育種利用、新たに品種登録出願された「はるのおうぎ」などについて説明。
沖縄県農業研究センター作物班 主任研究員	おおみ のりこ 大見 のり子	沖縄県におけるさとうきび生産と品種育成について	沖縄県における品種育成の工程、課題、今後の目標などについて説明。
鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場 作物研究室長	きとう みつり 佐藤 光徳	奄美地域の株出し栽培について～「新しい株出し時代」の栽培法と品種～	品種別の多回株出しへの適性、「はるのおうぎ」の奄美地域への適応性などについて説明。

2. 2日目の現地視察概要

2日目は、沖縄県農業研究センター石垣支所（以下「農研センター」という）、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター熱帯・島嶼研究拠点（以下「熱研」という）および底原ダムで現地視察を行った。

農研センターでは、品種別にさとうきびが植えられている圃場を視察した（写真3）。

熱研では、さとうきびの野生種などがパネルによる説明とともに展示されていた（写真4）。



写真3 農研センター視察の様子



写真4 熱研で展示されていたさとうきびの野生種



写真5 底原ダムの様子

底原ダムは、堤長の長さが農業用ダムとしては日本一であり、石垣市の農業を支えているダムの役割を学んだ（写真5）。

最後に、本検討会の開催に当たって、ご協力いただいた石垣市をはじめ、沖縄県、鹿児島県のさとうきびおよび甘蔗糖の生産に携わる関係者の皆さまにはこの場を借りて、改めてお礼申し上げます。